

2025年1月22日
千葉大学医学部附属病院

乳児のアトピー性皮膚炎を予防する方法を証明

ー皮膚を守る洗浄方法と保湿ケアの組み合わせによって予防するー

千葉大学医学部附属病院（病院長 大鳥精司）は、アレルギーセンター（センター長 中島裕史）の下条直樹らの研究グループが、低刺激な洗浄方法と保湿ケアにより、寒い時期に生まれた乳児のアトピー性皮膚炎（AD）の発症を予防できる可能性を、当院で生まれた新生児を対象とした調査で明らかにしましたので、報告いたします。なお本研究成果は、2024年11月13日、『International Archives of Allergy and Immunology』に Brief Reportとして掲載されました。

【調査方法】

2019年1月～9月生まれの子ども之母親へは従来のスキンケア方法（対照群；132名）を、2020年1月～9月生まれの子ども之母親へは新しいスキンケア方法（介入群；140名）を指導（指導内容は下記）し、生後12か月時のAD有病率についてアンケート調査を行いました。



新しいスキンケア方法は当院公式YouTubeからご覧いただけます。



おでこにシャワーを優しく当てて、洗い流します

	従来のスキンケア方法（対照群）	新しいスキンケア方法（介入群）
体	石鹸を使って手やガーゼで赤ちゃんの体を洗う（お風呂の中）	泡ソープを使って手で赤ちゃんの体を洗う（お風呂の外）
顔	ぬるま湯でガーゼを使って赤ちゃんの顔を洗う	泡ソープを使って手で赤ちゃんの顔を洗う
洗い流し	洗面器に張ったぬるま湯をかける	シャワーで泡を完全に洗い流す
保湿ケア	指導なし	FTU*プロトコルに従い、全身に保湿剤を1日1回塗る

*FTU（フィンガーチップユニット）：指の先から第一関節までノズル直径5mmのチューブから絞り出した量が、両手のひらに塗る量に相当するという塗り方

【結果】

参加者全員を評価した生後12か月時のAD有病率については、両群間で大きな差はありませんでした。しかし出生季節別の解析において、1月～3月生まれの子どもでは、生後12か月時のAD有病率が、対照群（21.2%）より介入群（2.9%）の方が有意に低いことがわかりました（フィッシャーの正確確率検定を実施。P<0.05）。（生後12か月時のAD有病率について）

		従来のスキンケア方法を指導された母親の子のAD有病率	新しいスキンケア方法を指導された母親の子のAD有病率
総合	1月～9月生まれ	66人中9人（13.6%）	86人中6人（7.0%）
	1月～3月生まれ	33人中7人（21.2%）	35人中1人（2.9%）
季節別	4月～6月生まれ	16人中2人（12.5%）	35人中3人（8.6%）
	7月～9月生まれ	17人中0人（0.0%）	16人中2人（12.5%）

【結論】

本研究結果は、乾燥した寒い時期に生まれた子どもについては、低刺激な洗浄と保湿によるスキンケアにより、ADを予防できる可能性があることを示しています。



【研究者コメント：アレルギーセンター客員教授 下条直樹】

アトピー性皮膚炎（AD）は日本人の赤ちゃんの約2割がかかるといわれており、特に秋・冬生まれの赤ちゃんはADになりやすいです。本研究ではそんな寒い時期に生まれた赤ちゃんにとって有効なADの予防方法を明らかにしました。「やさしい洗浄・しっかりとした洗い流し・保湿ケア」の組み合わせで大切な赤ちゃんのお肌を守りましょう。

<取材申し込み・お問い合わせ先>

千葉大学医学部附属病院 病院広報室 大嵩・松浦・室田

Tel：043-226-2225 Fax：043-224-3830 E-mail：byoin-koho@chiba-u.jp